

NERIMA ART MUSEUM NEWS

2023

練馬区立美術館 ニュース

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

27



CONTENTS

- 03 ——— 館長あいさつ
- 04 ——— MUSEUM CALENDAR
- 06 ——— 展覧会紹介
- 11 ——— 2022年度新収蔵品紹介
- 17 ——— 教育普及事業のご案内
- 20 ——— 公募展のご案内
- 21 ——— 貸出施設について
- 22 ——— 施設案内
- 23 ——— 交通案内

5本の展覧会とパワーアップする 教育普及事業にご期待ください

練馬区立美術館は今年で開館して38年目を迎えます。今年度も充実した企画展と教育普及活動を展開してまいります。また、現在進行中の美術館の再整備事業についても、いよいよ本格的に始動する時になり、今年度は建築では基本設計に着手してまいります。

さて、展覧会についてご紹介をします。企画展とコレクション展を合わせて5本を実施いたします。「生誕120年 大沢昌助展」、「植物展」、「宇川直宏展」、「古賀忠雄展」、「生誕150年 池上秀畝展」になります。春の「大沢昌助展」では、スケッチ、壁画などの大沢芸術の多面性を紹介します。続く「植物展」ではコレクションをベースにして、芸術の対象としての植物に焦点を当てたユニークな切り口の展覧会を実施します。植物の豊かな世界を感じていただけるでしょう。また、秋の「宇川直宏展」では、現代美術家、映像作家、グラフィックデザイナー、文筆家などの多彩な顔を持つ宇川のアートの世界を新作含めて紹介してまいります。今まさに変化する現在のアートを体験してください。続いて、「古賀忠雄展」では、練馬ゆかりの彫刻家の古賀忠雄の世界を近隣のパブリックアートの魅力を含めて紹介します。最後は「池上秀畝展」です。秀畝の人生と代表作をたどり画歴を顕彰します。どれも日本の近・現代の美術の豊かさを実感いただける内容です。

続いて、教育普及プログラムをご紹介します。展覧会に付随した関連イベントでは、ギャラリートークやアーティストトークなどを実施いたします。例年通りに学校関連プログラムなども開催します。教育普及事業は、交流事業を加えて、美術館を出て公園や商店街まで広がり、さらにパワーアップしてまいります。

2023年の美術館にご期待ください。

2023年4月
練馬区立美術館 館長

MUSEUM CALENDAR

※ 新型コロナウイルス感染症等の影響により、展覧会の会期および内容が変更になる場合があります。
ホームページ等でご確認ください。

	2 階 展示室 1	3 階 展示室 2・3
2023 4		
5		
6	生誕 120 年 大沢昌助 展	1
	2023 年 4 月 29 日 [土・祝] — 6 月 18 日 [日]	
7		
8	植物展 (仮)	2
	2023 年 7 月 2 日 [日] — 8 月 25 日 [金]	
9		
10	宇川直宏 展	3
	FINAL MEDIA THERAPIST @DOMMUNE (仮)	
11	2023 年 9 月 10 日 [日] — 11 月 5 日 [日]	
12		4
2024 1	生誕 120 年 古賀忠雄 展 彫塑の楽しみ (仮)	
	2023 年 11 月 17 日 [金] — 2024 年 2 月 25 日 [日]	
2		
		第 69 回 練馬区美術家協会展 2023 年 11 月 17 日 [金] — 26 日 [日]
		練馬区中学校生徒作品展 2024 年 1 月 13 日 [土] — 17 日 [水]
		練馬区小学校連合図工展 2024 年 1 月 20 日 [土] — 25 日 [木]
		練馬区小中学校連合書きぞめ展 2024 年 1 月 27 日 [土] — 28 日 [日]
		第 55 回練馬区民美術展 2024 年 2 月 3 日 [土] — 12 日 [月・休]
3		
4	生誕 150 年 池上秀畝 展 (仮)	5
	2024 年 3 月 16 日 [土] — 4 月 21 日 [日]	

生誕120年 大沢昌助 展

会期：4月29日[土・祝] — 6月18日[日]

大沢昌助(1903–1997)は戦前、戦後の社会背景を見据えつつ、ブレることのない独自のスタイルを貫いた昭和を象徴する美術家です。モダン、シンブル、自由そして軽やか。そんな言葉が大沢の作品には息づいています。

当館では最初期から晩年に至る、100点以上もの作品を所蔵しており、1991年の回顧展を皮切りに1996年の追悼展、父で建築家の大沢三之助との親子展など折にふれその芸術を紹介してきました。本展では生誕120年という記念の年にあたって、これまで紹介してきた作品に加え、作画の原点であるスケッチ類や三之助作品を含む新収蔵品、調査の中で新たに発見された作品を展観します。また、大沢は世田谷区役所や旧国立競技場、東京都議会議事堂といった東京のランドマークに壁画を遺しています。建造物と共に失われる危機を迎える中、今回これらの映像を展示し、記録、記憶としてとどめていくことも本企画の目的の一つです。1980～90年代にかけての晩年の抽象画を含めた約120点で大沢芸術の豊かさを多面的に紹介する展覧会です。

観覧料：一般 1,000円



左上 _____《習作I》1991年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
左下 _____《人と太陽》(旧国立競技場壁画原画下図) 1964年頃 鉛筆、グアッシュ・紙 個人蔵
右上 _____《水浴》1941年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館
右下 _____《笛を吹く童女》1978年 油彩・キャンバス 個人蔵

植物展(仮)

会期：7月2日[日] — 8月25日[金]

食物や道具の素材、そして鑑賞の対象として、植物はわたしたちの日々の生活とわがちがたく結びついています。もちろん美術においても時代や地域を超えて重要なモチーフであり続けてきました。本展では当館の収蔵作品を中心に、植物の描かれ方の多様さを紹介しながら、植物がいかに作り手を触発してきたかを探ります。

展示作品は、日本画や洋画、版画や彫刻など、日本の近現代に作られた多様なジャンルの作品・資料、約80点です。また、美術作品に加えて、植物学者の牧野富太郎による植物図や植物標本もあわせてご紹介します。日本の植物学の黎明期に大きな足跡を残した牧野は、晩年の30年間を練馬区・大泉で暮らし、植物研究を続けました。牧野は科学者として、またひとりの人間として植物を愛した人物でした。

美術のジャンルや学問的な専門領域を超えて、作り手たちは植物を観察しその特徴を描き出そうとするなかで、普段わたしたちが気づかずに通り過ぎてしまうような植物の魅力に迫っていくのかもしれませんが。現実を精緻に写しとったイメージから、想像された実在しない植物まで、本展を通じて、美術館の中でこそ見られる植物の魅力に出会っていただければ幸いです。

収蔵作品からの出品予定作家(50音順)

麻田鷹司／佐田勝／佐藤多持／須田悦弘／竹原嘲風／早川芳彦／平澤熊一／本橋雅美／森白甫 ほか

観覧料：一般 500円



左 _____森白甫《夕紅》1953年 紙本着色 練馬区立美術館
右 _____牧野富太郎「ホテイラン」(東京帝国大学理科大学植物学教室編纂『大日本植物志』、第一巻第四集 第一六四図版) 1911年 紙に多色石版印刷 個人蔵

3

宇川直宏 展

FINAL MEDIA THERAPIST @DOMMUNE (仮)

会期：9月10日[日] — 11月5日[日]

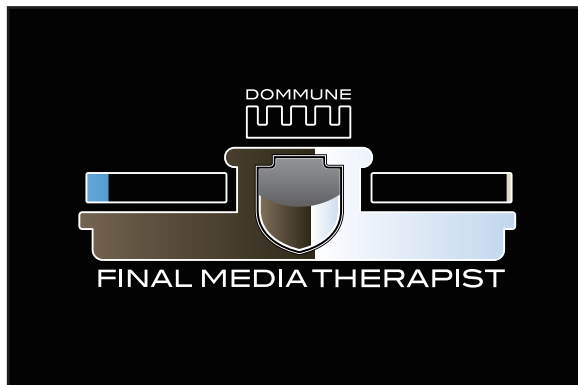
宇川直宏(1968年生まれ)は、1980年代末より映像作品、イラストレーション、グラフィックデザイン、VJ、文筆、キュレーションなど多岐にわたる活動を展開するアーティストです。2010年には世界に先駆けてライブストリーミングチャンネル「DOMMUNE(ドミューン)」を立ち上げ、毎夜、多種多様なトーク、DJのプレイ、ライブやトークセッション等を配信し続け、国内外の先端的なアートシーンに大きな影響を与えています。

本展では、13年間のDOMMUNEの膨大なアーカイブを紹介するとともに、それらの映像を素材として、絵画や立体作品など他のメディアに拡張・変換・創造していきます。

その過程で介在するのは、宇川自身だけでなく、様々な年齢・バックボーンを持つ人々、そして人工知能。アーカイブの様々な可能性を探るとともに、近年広く普及し始めた人工知能による画像生成にも着目し、描くとは何か、作家や作品のあり方や価値とは何かなど、美術を新たに捉え直すプロジェクトとなります。また会期中には美術館を舞台としてストリーミング配信を行い、さらなる情報の蓄積を目にすることもできます。

毎日大量の人が行き交うプラットフォームであり情報の源泉である「DOMMUNE」を、様々に変換し時空を錯綜しながら眺める試みは、現在社会を取り巻く様々な問いを更に深める機会ともなるでしょう。

観覧料：一般 1,000円



4

生誕120年

古賀忠雄展 彫塑の楽しみ(仮)

会期：11月17日[金] — 2024年2月25日[日]

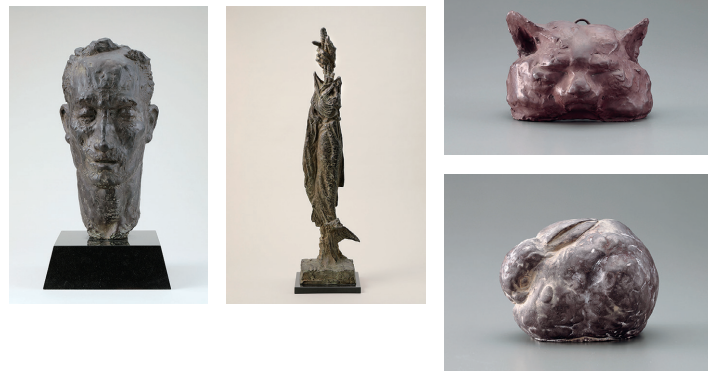
練馬区ゆかりの彫刻家・古賀忠雄(1903-1979)を紹介する展覧会です。

佐賀県佐賀市に生まれた古賀は、高等科を卒業後、佐賀県立有田工業高校図案絵画科に入学し、教師であった日本画家・腹巻丹丘に才能を認められます。1926年には東京美術学校彫刻科塑像部本科に入学。在学中の1929年第10回帝展に《仏心》を出品し初入選しました。その後帝展で活躍し、戦後は日展の評議員、理事を務めながら、日本彫塑会委員長、日本陶彫会会長などを歴任しました。古賀は区内に長くアトリエを構えており、当館では1988年に「彫刻家古賀忠雄の知られざる世界」を開催しています。

古賀が表現手段とした彫塑は、作家が直接手をかけた原型が保管・展示されることは多くなく、他の人の手による鋳造過程を経て作品が発表の舞台に出ていきます。さらに、同じ型から複数の作品を生み出すことのできる、複製芸術でもあります。また、屋外に設置され公共性の高い存在となることも多く、制作の背景のみならず設置前後の様々な過程は実に興味深いものです。

本展では当館及び練馬区所蔵の12作品に加え、区内または他地域に設置された古賀作品をパネルで提示し、作品とともにそれぞれの物語を紡ぎます。また制作工程の紹介や、複製された小品を手にとって比べてみるコーナーを設けるなど、彫塑作品の面白さを様々な角度からお楽しみいただきます。

観覧料：無料 ※会場は2階展示室のみ



左 _____《練馬の男》1948年 ブロンズ 練馬区立美術館

中 _____《蛙》1952年 ブロンズ 練馬区立美術館

右上 _____《猫》1944年 石膏 練馬区立美術館

右下 _____《ウサギ》不詳 石膏 練馬区立美術館

生誕150年 池上秀畝 展(仮)

会期：2024年3月16日[土] — 4月21日[日]

池上秀畝(1874–1944)は、長野県上伊那郡高遠町(現在の伊那市)に生れ、明治22(1889)年、本格的に絵を学ぶため上京。当時まだ無名だった荒木寛畝の最初の門人・内弟子となり、1916年から3年連続で文展特選を受賞、帝展で無鑑査、審査員を務めるなど官展内の旧派を代表する画家として活躍しました。

同じく長野県出身で、同い年の菱田春草(1874–1911)らが牽引した「新派」の日本画に比べ秀畝らの「旧派」呼ばれる作品は近年の展覧会等で取り上げられることは少なく、その知名度は限られたものに過ぎませんでした。しかし、伝統に基づく旧派の画家たちは、会場芸術として当時の展覧会で評価されることのみならず、屏風や建具に描かれた作品は屋敷や御殿を飾る装飾美術としても認められていました。特に秀畝は徹底した写生に基づく描写に、新派の画家たちが取り組んだ空気感の表現なども取り入れ、伝統に固執しない新しい日本画表現を見せています。

令和6年(2024)は秀畝の生誕150年にあたり、彼の人生と代表作をたどり、画歴の検証を行うと共に、新たな視点で「旧派」と呼ばれた画家にスポットを当てるものです。

観覧料：一般 1,000円

巡回：長野県立美術館 2024年5月25日～6月30日(予定)



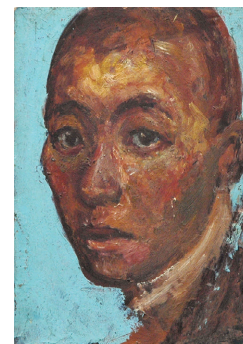
左上 ____ 《松に白鷹図》(旧峰須賀家杉戸絵) 1928年 板・着彩 オーストラリア大使館蔵

左下 ____ 《桜花雙鳩・秋草群鶉図》 1921年 紙本着彩 二曲一双 練馬区立美術館

左 ____ 《四季花鳥(夏)》 1918年 絹本金地着彩4幅対のうち 長野県立美術館蔵

2022年度新収蔵品紹介

作品：計96件(寄贈)



野見山 暁治

(のみやま ぎょうじ・1920生)

新収蔵作品59件



上左 ____ 《街はずれ》 1949年頃 油彩・キャンバス 45.5×53cm

上右 ____ 《自画像》 1937年 油彩・板 22.8×16cm

下左 ____ 《どこまでも夏》 2005年 油彩・キャンバス 181.5×227.5cm

下右 ____ 《岬の日記》 1996年 油彩・キャンバス 182×228cm

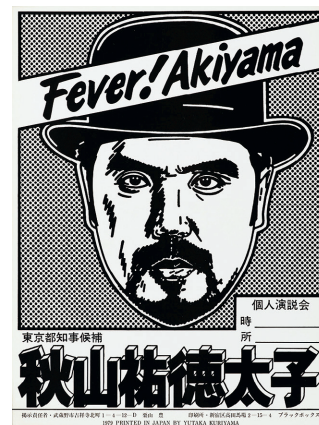
高山良策
(たかやま りょうさく・1917-1982)
新収蔵作品 4 件



左 《面》 制作年不詳 FRP 31.5 × 23 × 6.7cm
右 《人形》 制作年不詳 紙粘土 27 × 14cm



秋山祐徳太子
(あきやま ゆうとく・1935-2020)
新収蔵作品 4 件



堀内正和
(ほりうち まさかず・1911-2001)
新収蔵作品 1 件

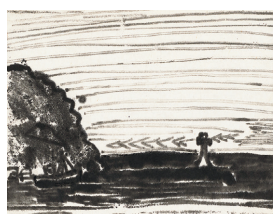
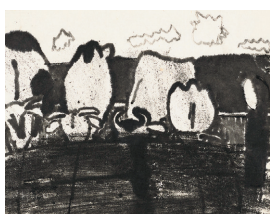


《片側局面直角六边形B》1963 年
ブロンズ 56 × 40 × 30cm



上左 《東京都知事立候補ポスター》 1975 年 印刷・紙 36.1 × 25.7cm
上右 《東京都知事立候補ポスター》 1979 年 印刷・紙 40 × 30cm
下左 《東京都知事立候補ポスター》 1979 年 印刷・紙 42 × 39.2cm
下右 《東京都知事選挙運動用葉書》 1975 年 印刷・紙 14.8 × 10cm

中村忠二
(なかむら ちゅうじ・1898-1975)
新収蔵作品 1 件



《黒湖集》1964年 モノタイプ・紙 48枚組より 各19×27cm

大沢三之助
(おおさわさんのすけ・1867-1945)
新収蔵作品 17 件



左 ____ 《夏日》1892年 水彩・紙 25×21.5cm
右 ____ 《寒緋桜》制作年不詳 水彩・紙 19.1×14.7cm



大沢昌助
(おおさわ しょうすけ・1903-1997)
新収蔵作品 5 件



左 ____ 《湖畔の夕》1921年 水彩・紙 25.2×33cm
右 ____ 《水浴の少年習作》制作年不詳 水彩・紙 26×19.8cm



太齋春夫
(だざい はるお・1907-1944)
新収蔵作品 2 件



左 《度量衡省(台湾)風景》制作年不詳
漆絵・板 30.5×46.2cm
右 《風景》制作年不詳 漆絵・板 45.5×53cm

長根 翠
(ながね みどり・1912-2012)
新収蔵作品 1 件

《藤田嗣治練馬アトリエ》制作年不詳
油彩・キャンバス 61×50.8cm



寺田真由美
(てらだ まゆみ・1958生)
新収蔵作品 2 件

左 《curtain010401》2001年
ゼラチン・シルバー・プリント 50.8×61cm
右 《exam table with hibiscus140401》2014年
ゼラチン・シルバー・プリント 50.8×61cm

教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、なりま区報(30名以上の募集事業) および美術館ホームページに開催1ヶ月程前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

＼ 展覧会を様々な角度から楽しむ /

展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、
コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

※現在は事前申込制のスライドトークを行っています。

コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



鑑賞プログラム 「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。
初めての美術館に!



実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



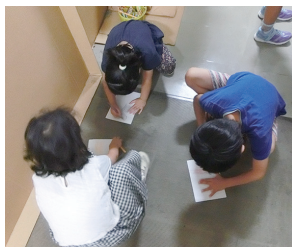
＼ 人が集う場作り ／

美術館を楽しむワークショップ

館内探検（5歳～小学2年生対象、8月開催）
所蔵品カードで遊ぼう！（小学生～大人対象、12月開催）

「美術館をつかまえる!?」 館内探検とフロッターージュ

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッターージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



＼ 美術館の施設及び展覧会を学校の学習に ／

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム
内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在26名がサポーターとして活動しています。
主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、
イベントの会場受付、練馬ゆかりの作家調べなどです。

アートでねりまち

練馬区立美術館では、美術を通してまちを楽しむプロジェクト「アートでねりまち」を始めます。これまで展覧会に関連する教育普及事業を数多く行ってきました。ワークショップや実技講座、パフォーマンスなど、それぞれの展覧会をちょっと違う角度から眺め楽しむ方法を使って、今度はまちに飛び出します。今年度4本の展覧会をヒントとし、まちあるきを楽しみながら、美術と練馬の魅力を双方から探るプロジェクトです。1月には今年度事業の集大成としてアートマルシェを開催します。

春

〈生誕120年 大沢昌助展〉関連
5月21日(日) 10:30～15:00
講師：弓指寛治(画家)

夏

〈植物展〉関連
7月23日(日) 10:30～17:00
講師：伊藤千恵(練馬区立牧野記念庭園学芸員)

秋

〈宇川直宏展〉関連 内容未定
※詳細は決まりしだい当館ホームページ等でご案内いたします。

冬

〈生誕120年 古賀忠雄展 彫塑の楽しみ〉関連
11月18日(土) [A] 10:30～12:30 / [B] 14:00～16:00
11月19日(日) [C] 10:30～12:30 / [D] 14:00～16:00
講師：真子みほ(当館学芸員)

アート マルシェ

2024年1月20日(土)・21日(日)
・ワークショップ・パフォーマンス
講師：山本高之(美術作家)
・春夏秋冬の事業をテーマとした
当日参加のワークショップ
・美術館と美術の森緑地のセルフ鑑賞シート配布
・美術の森緑地での出店 ※小雨決行・荒天中止
・貫井図書館での絵本の読み聞かせ など

- 各事業の参加対象年齢、人数、参加費は未定です。
- 各事業はそれぞれ1か月半程前に参加者の募集を開始します。申込べ切は各事業の2週間前の金曜日です。詳細は随時美術館ホームページまたは練馬区報をご覧ください。
- 春夏秋の事業の参加には、当日の展覧会鑑賞券が必要です。

公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。令和5年度は、11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第55回 練馬区民美術展

会 期

2024年2月3日(土)～12日(月・休)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)

日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景



貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※ 2023年度の企画展示室の貸出期間は、12月5日(火)～28日(木)、1月4日(木)～11日(木)、および2月14日(水)～25日(日)の期間です。(2023年4月1日現在)

名 称	面 積	使 用 料	貸 出 条 件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

創 作 室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名 称	面 積	定 員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	[午前] 10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル 等
			[午後] 14:00～18:00	1,600円	

※ 練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

施設案内

予約制ではありません。
当日、チケットカウンターでチケットをお求めください。
(無料展は直接展示室へお越しください)

開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)、
年末年始(12月29日~1月3日)、展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料で
ご覧いただけます。(年齢等の確認できるものを提示した場合に限る)

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で
販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもござ
いますので、お問い合わせください。

バリア フリー

- ・当館の展示室は2階・3階にございます。
館内にはエレベーターを設置しております。
- ・誰でもトイレを設置しております。
- ・障害者の方は、当館のご利用に限り
駐車場をお貸しできます。(事前予約制)
- ・館内で利用いただける、
車椅子・ベビーカーを用意しております。(数に限りがあります)
- ・授乳室を設置しております。
- ・受付に筆談ボードを用意しております。

Twitterをフォローしませんか？

開幕前の準備状況から学芸員の展覧会こぼれ話など、
展覧会がより楽しくなる情報をお届けします！
展示替休館の情報や混雑時には館内状況もお知らせします！



QRコードを読み込んで
フォローしてね!!
@nerima_museum

交通案内

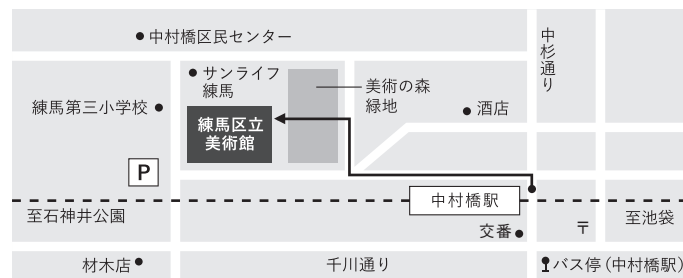
鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点

荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点

荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※ 駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※ 障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

隣接する施設

貫井図書館(1階)

練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



練馬区立美術館

NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821

<https://www.neribun.or.jp/museum.html>

(公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています)

練馬区立美術館ニュース 第27号

発行: 練馬区立美術館 発行年月日: 2023(令和5)年4月1日

印刷: 山田写真製版所 デザイン: 星野哲也

